

## 巻頭言

# 市立札幌病院 地域連携センター長就任ご挨拶

当院の地域連携センター長に就任いたしました関と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。就任に際し、一言ご挨拶申し上げます。

当院の地域連携センターは、市民の生活圏域にある病院や診療所などと緊密な医療連携を結び、患者さんへ継続的医療の提供を目指し、2008年4月に設置されました。

当センターは、2つの理念を常に念頭におき、日々の業務に専心しております。

- 地域の医療機関と緊密に連携し、切れ目のない医療を提供すること
- 患者さんや地域に信頼される迅速、適確、心のこもった連携をめざすこと

“緊密な連携と切れ目のない医療を提供”するにはどのようにしたらよいのでしょうか？

まず、十分な患者情報の共有が必要です。当院で行った治療内容を正確に連絡し（手術内容、処方内容など）、経過観察をお願いするに当たっては、再診していただく場合の状態や困ったときの対応などを地域の医療機関へ正確に伝える必要があります。

また、地域の医療機関に当院の患者さんを安心して受け入れていただくために、異常事態が発生した場合の受け入れ体制も求められています。

“患者さん、地域に信頼される迅速、的確、心のこもった連携”はどうすれば得られるのでしょうか？

当院は急性期病院ですので、まずは紹介患者さんの予約を迅速に行い、入院、手術などが早く受けられるように整えることが重要です。当院での治療は基本的に急性期の処置や根治的な治療が主体になりますが、患者さんの状態によっては、必ずしもご希望に添えない場合もあります。そのような場合は、複数の診療科や職種と相談し、また紹介元の先生、患者さんや家族のお気持ちを確認し、患者さんご家族と十分な話し合いを持って治療を決定すべきものと考えています。

副院長  
地域連携センター長  
せき としもり  
関 利盛



また、当センターでは急性期治療が一段落し、さらに入院治療が必要な患者さんの転院調整を担当しています。

昨年は、連携医療機関の皆様の迅速な対応により約90の医療機関に475名の患者さんの転院をお願いしました。転院に当たっては、患者さんやご家族の要望の確認はもとより、必要な治療が継続されるよう医療機関同士の情報交換を密に行うことを大切にしています。

私たちはこのような考えから、当センターの活動方針として以下の4点を掲げ、連携の質向上を目指しています。

- ◆病院としての役割、機能を果たすために、地域医療機関と連携して紹介・逆紹介を進め、診療機能分担促進を行う。
- ◆地域医療機関、介護・福祉関連施設との医療・看護水準の相互向上を図る。
- ◆患者、家族のニーズを反映し、迅速、的確、心のこもった退院・転院調整を行う。
- ◆相談・調整・連携に必要な最新知識の習得、情報収集に努める

またこれらのことをより積極的に行うためのツールとして、地域連携バス（薬剤溶出ステント留置後連携バス、ベアメタルステント留置後連携バス、前立腺癌連携バス、5大癌連携バスなど）を用いています。今年度は更に精神医療センターが当院に併設されました。身体合併症を持つ精神疾患患者さんが紹介されることになると思います。数多くの患者さんを紹介していただき、当院での治療に満足していただき、地元の医療機関へお返しすることが私たちの使命と考えています。

安全で良質な医療の提供に努力いたします。ご意見、ご希望等あれば遠慮なく連絡してください。

今後とも、当地域連携センターをよろしくお願いいたします。

